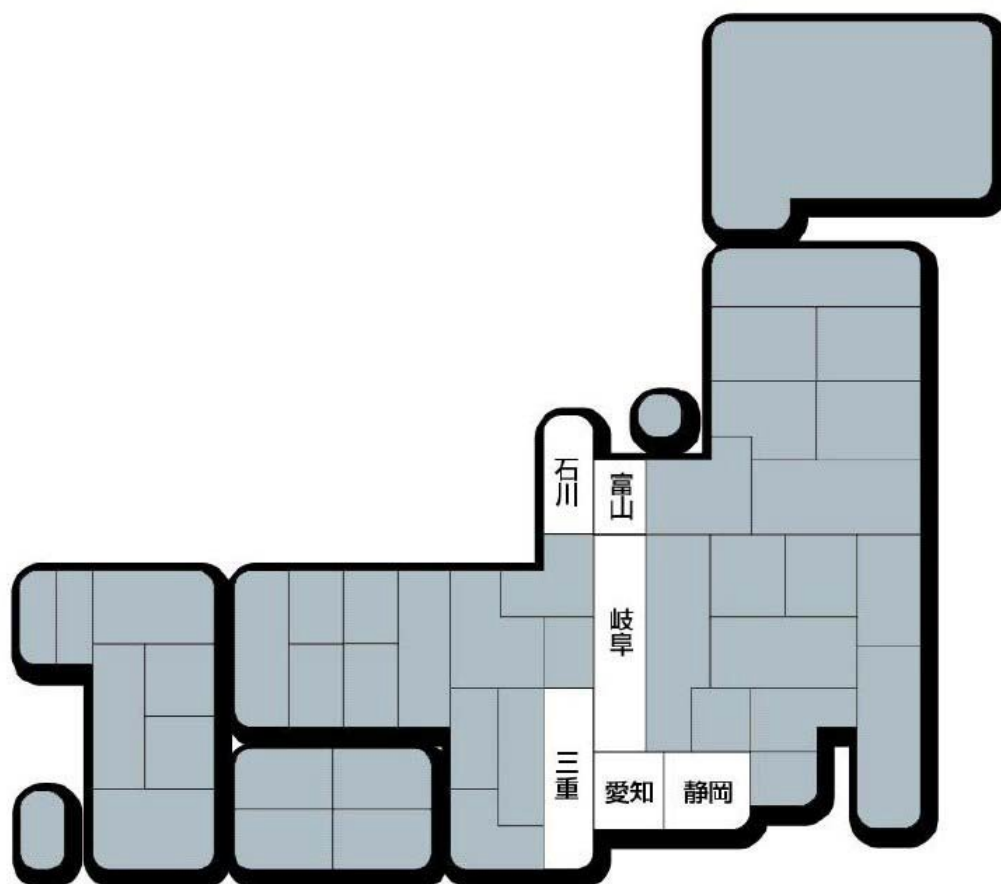


東海北陸国立病院薬剤師会

会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.33

2025.3

目次

【巻頭言】			
東名古屋病院	滝 久司	1
【施設紹介】			
静岡てんかん・神経医療センター	古屋 裕之	3
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
静岡医療センター	平島 学	5
○業務推進委員会			
名古屋医療センター	安藤 舞	13
○学術研究委員会			
三重病院	山本 高範	16
【編集後記】		19

巻頭言

東名古屋病院 滝 久司

歳月の流れは早いもの、故二宮英先生の門戸をたたき病院薬剤師を目指してから今や論語が基になった、子曰く、「五十にして天命を知る」と言われる歳になり、間もなく「六十にして耳順う」と言われる歳となる。この間、病院薬剤師の仕事も随分様変わりしてきたのだが、“Pharmaceutical care the responsible provision of drug therapy for the purpose of achieving definite outcomes that improve a patient's quality of life.”という薬剤師としての基本的な考え方は小生には今も根付いているところである。

一方、当初思い描いていなかったようなさまざまな事象が時代の流れとともに変革し、原稿執筆時には2040年に向けた医療提供体制の展望を見据えた地域医療構想の実現への取り組みや医師・医療従事者の働き方改革を推進した総合的な医療提供体制改革の議論がされているところである。また、タスク・シェアリング／タスク・シフティングやチーム医療の推進が今まさに実践されており、われわれ薬剤師も医療の質の向上や医療安全の観点から薬の専門家である薬剤師が主体的に薬物療法に参加することが有益とされ、現行制度の下、事前に作成・合意されたプロトコールに基づいた薬剤の種類・投与量・投与方法・投与期間等の変更や検査のオーダー、薬剤選択などの医師への積極的な処方提案、抗がん剤等の適切な無菌調製など薬剤師を活用することが望まれるようになってきた。今では病棟薬剤業務実施加算をはじめとしたさまざまな診療報酬が当たり前のように算定できるようになっているが、やはりこれらは医療や薬学の発展に貢献されてきた先人・先輩の薬剤師の努力と業績があったからこそであることを忘れてはならない。

さて、ここで忘れてはならないではなく忘れられない記憶としては厚生労働省での職務である。当時の医薬食品局審査管理課医療機器審査管理室、健康局結核感染症課予防接種室、保健局医療課医療指導監査室を歴任してきた訳であるが、赴任する前にある先輩から仕事をするにあたって「考えて、考えて、考えろ」との助言をいただいた。右も左も分からない省内でこの言葉の意味するところを考えてみたのだが、見つからない。そして時が過ぎたある日のこと、サリドマイド被害者の方々から薬系技官に向けてのお話をいただいた際、「さまざまな事案があるとは思いますが、日本を支える厚生労働省の行政官としてひとつひとつに向き合い、そして考えて考えた上で職務にあたっていただきたい」というような言葉でその話の最後を締めくくられた。時をあとにして、厚生労働省玄関の前には「命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する」との誓いの碑があることを知ったのだった。

さて、外務省での生物多様性条約・名古屋議定書の議論に厚労省代表として参加、WHOでの国際会議に日本代表として参加、そして厚生科学審議会予防接種・ワクチン分

科会予防接種基本方針部会では、予防接種に関する基本的な計画を策定し、特にその中では開発優先度の高いワクチンを施策のひとつとして掲げ「予防接種・ワクチンで防げる疾病は予防すること」という基本的な理念の下、ワクチンの研究開発に邁進した。この中で国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター長の田代真人先生より、これまでのインフルエンザワクチンの株数を改め、わが国でも欧米諸国と同様に両系統のワクチンを含む4価ワクチンの導入を急ぐべきとの提議を受け、国立病院機構三重病院院長であった故庵原俊昭先生をはじめインフルエンザワクチンに関連するさまざまな専門家の先生方の助言をいただきながら生物学的製剤基準を改め、ようやく2015年5月8日付健発0508第1号「平成27年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について」において4価インフルエンザワクチンの通知を発出し、導入にこぎつけることができた。

ここで、ワクチンというものはあくまでも私見ではあるが18世紀ごろにジェンナーが種痘を発明して以来、数多くのワクチンが開発される中、わが国では戦後GHQの指導による予防接種プログラムと予防接種法の策定、1961年のポリオ生ワクチンの緊急輸入の決断によるポリオの流行回避、1980年代のインフルエンザワクチンは言われているほど効かないのではといった前橋レポートによる議論、1976年の予防接種の副反応による健康被害が不可避的に発生するという特殊性に鑑みた国家補償の観点による法的な救済措置としての健康被害救済制度の創設、そして本文でも紹介した予防接種基本計画の策定と至るわけだか、このような予防接種・ワクチンの議論は、長い歴史の中でわが国だけでなく世界中の至るところで交わされてきたところである。「何も起きなかった人たちがいることに自覚的であるべき」、「ワクチンのダブルバインドの構造を手塚洋輔先生の著書『戦後行政の構造とディレンマ-予防接種行政の変遷』に作為過誤回避と不作為過誤回避のジレンマにある」など、今こうして予防医学がささやかれている中、われわれ薬剤師も抗微生物薬だけでなく、ワクチンに対してももっと関心をもつべきと思うところである。

最後に厚生労働行政に限ったことではないが、すべてのことは自身の承認欲求のためではなく、横浜 DeNA ベイスターズ南場智子オーナーの言葉を借りるならば「こと」に向かうことにその大切さの意味があるような気がする。そして、「どんなに遠くてもたどり着いてみせる♪」（『家路』浜田省吾1980より）、あの頃の想いを忘れずにこれからも過ごしていこうと思う。

【施設紹介】 静岡てんかん・神経医療センター

薬剤部長 古屋 裕之



静岡市の中心部から北東約 6 k m の地点にあり、周辺は市街化調整区域に指定されて緑地公園がつづき、四季を通じ閑静・温暖です。所在する漆山地内には、県立こども病院、県立中央特別支援学校、県立北特別支援学校があり、また周辺には福祉施設等が多く、「医療・福祉・教育」エリアを形成しています。すぐ近くには、広大な美しい自然を抱えた遊水地があります。交通は JR 静岡駅からバスで約 30 分、東名高速清水インターより約 20 分、東名高速静岡インターより約 30 分、最もアクセスの良いのは新東名高速新静岡インターより、県道 74 号線を南へ数分です。

当院はてんかん 196 床、神経難病 50 床、重症心身障がい 160 床、計 406 床の入院病床があり、静岡県でのんかん支援拠点病院、日本てんかん学会の包括的てんかん専門医療施設、難病医療協力病院、静岡市認知症疾患医療センターとなっています。

てんかん科は、平成 22 年に静岡てんかん地域ネットワーク研究会を立ち上げ、平成 27 年 11 月には厚労省の「てんかん地域診療連携体制整備事業」における全国 7 か所の拠点病院の一つに指定されました。現在は全国に 30 施設が指定されているてんかん支援拠点病院の一つとして連携強化を進めています。乳幼児から高齢者まで、正確なてんかん診断や原因・背景疾患の診断から新規抗てんかん薬の調整も含めた合理的薬物療法、てんかんの外科手術（約 70 件/年）や食事療法、免疫修飾療法まで、県内はもとより日本全国、さらには外国の患者さんにも対応しています。

脳神経内科は、令和 5 年 12 月のレケンビ[®]発売を機にアルツハイマー病を中心とした認知症診療の比重が大きくなっています。これまで診療の主体であったパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症などの中枢神経疾患、多発性神経炎をはじめとした末梢神経疾患、重症筋無力症やミオパチーといった筋疾患の診療も継続しています。

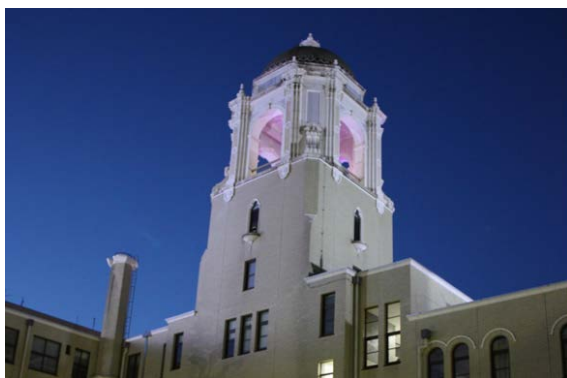
薬剤部は 2023 年 12 月にアルツハイマー病の新しい治療薬レケンビ[®]が発売となり、院内でワーキンググループを立ち上げ、適正使用に向けた運用の検討を行い、2024 年 2 月よりスタートとしました。これに伴い薬剤部では、薬剤師外来として医師の外来診察前に持参薬・併用注意薬剤の確認やアドヒアランスのチェックなどを始めました。2025 年 1 月までに治療開始患者数は 40 名で県内でも多い導入施設となっています。チーム医療においては、医療安全、感染対策チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチームに参画しています。

薬学生の病院実務実習は、静岡県立大学の薬学部生毎年1名受け入れています。また、てんかん専門職セミナー、てんかん看護セミナー、認知症疾患医療センター市民公開講座など外部向け研修会の講師も担当しています。

○パープル・デー

毎年3月26日にてんかんへの関心、意識を高めるため、てんかんが誰にでもかかりうる可能性があり、いろいろな症状があることを理解して頂き、一人でも多くの方が早期発見、治療につながるように、紫色の物を身に着け、世界中で活動を行っています。

当院においてもパープル・デーに合わせ、さまざまなてんかんの啓発活動を行っております。昨年は、サッカーJ2の藤枝MYFC様のホーム開幕戦にて入場者にパープル・デーにかかるグッズを配布したり、静岡市役所において開催されるイベント（ライトアップ点灯式）へ出展したりするなどさまざまな啓発活動を行いました。



教育研修委員会の活動報告(令和7年3月)

教育研修委員長

平島 学

今年で3回目となる「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 LIVE 2025」は、薬学部5年生を対象として「国立病院機構の組織」「病院薬剤師」について具体的にイメージすることができるよう、今回は7名の先生方に登壇いただき、事前にセミナー参加者より集めた質問に対して、座長進行のもと演者との絶妙な掛け合いで回答していくことで、学生にとって非常に参考となる会になったかと思えます。また、東海北陸グループのホームページに過去2回分の動画も公開しておりますので薬学実習生にもぜひお知らせください。

また、今年度も業務推進委員会と合同で「THP 医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI[®]を使って)」を三重地区で開催しました。本研修は参加者から非常に好評の研修で、今まで気づくことのできなかった自分の内面を改めて見つめる良い機会となります。今回で、愛知地区、北陸地区、静岡地区、三重地区の4地区で開催することができました。今後の開催継続や開催場所については業務推進委員会と検討を進めていきたいと思えます。

NHO-PADに関しては、昨年同様NHO-PADを用いた評価を実施しました。2月に令和5年度入職者の4回目と令和6年度入職者の2回目の自己評価、他者評価を行っていただきました。評価結果は、集計が完了次第、お送りしますので、今後の指導・教育にご活用ください。

今回は、「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 LIVE 2025」、「THP 医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI[®]を使って)」についてご紹介したいと思います。

◆ けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2025 LIVE

開催日:令和7年2月21日(金)

開催方法:Microsoft Teams

受講生 :48名(薬学生23名)

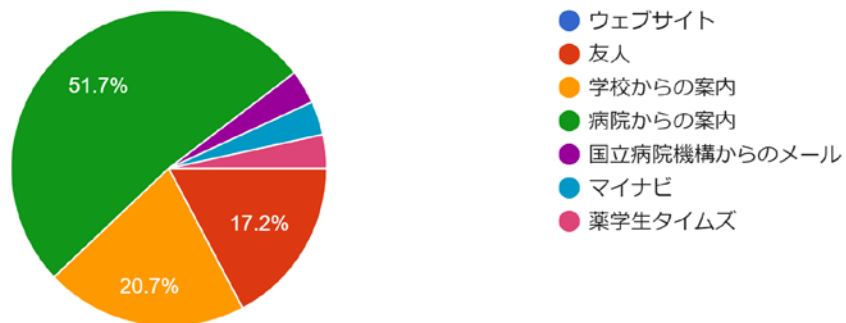


令和7年2月21日に薬学部5年生を対象として「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2025 LIVE」と銘打ってオンラインセミナーを開催しました。今回は就職1年目の薬剤師、中堅薬剤師、専門分野で活躍している薬剤師、管理職としての薬剤師の経験と働き方をリアルな内容で紹介するセミナーとなっています。「病院薬剤師」の業務にどのように活用されているか具体的にイメージすることができるよう、毎年好評な「1年目のリアル」では、薬学生に最も近い薬剤師の先輩として、入職後の1日のスケジュール、業務内容の紹介から始まり、様々な不安を抱えながらも入職して良かった点などリアルな内容を講演いただきました。また、チーム医療や専門分野で活躍する薬剤師にも興味を持っている薬学生が多いため、チーム医療としてICT、病棟での取り組みとして、産婦人科病棟と今話題のポリファーマシーに係わる薬剤総合評価調製加算等の取り組み、新設した「エキスパート薬剤師」の取り組みとして、がん薬物療法連携充実加算等の取り組みについて紹介いただきました。更に「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師」として、学生から最も質問の多い、勤務先・転勤、給与面や福利厚生などを薬事専門職よりご紹介いただきました。

薬学生に興味を持ってもらえる以前に、本セミナー自体を知っていただくことが重要と考え、今回は各施設の先生方へ宣伝にご協力を要請させていただきました。多くの先生方のご尽力のおかげで今年度も多くの薬学生に参加いただくことができ、参加者へのアンケートの21件の回答のうち51.7%が「病院からの案内」という結果でした。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

このイベントのことを、どのようにしてお知りになりましたか。

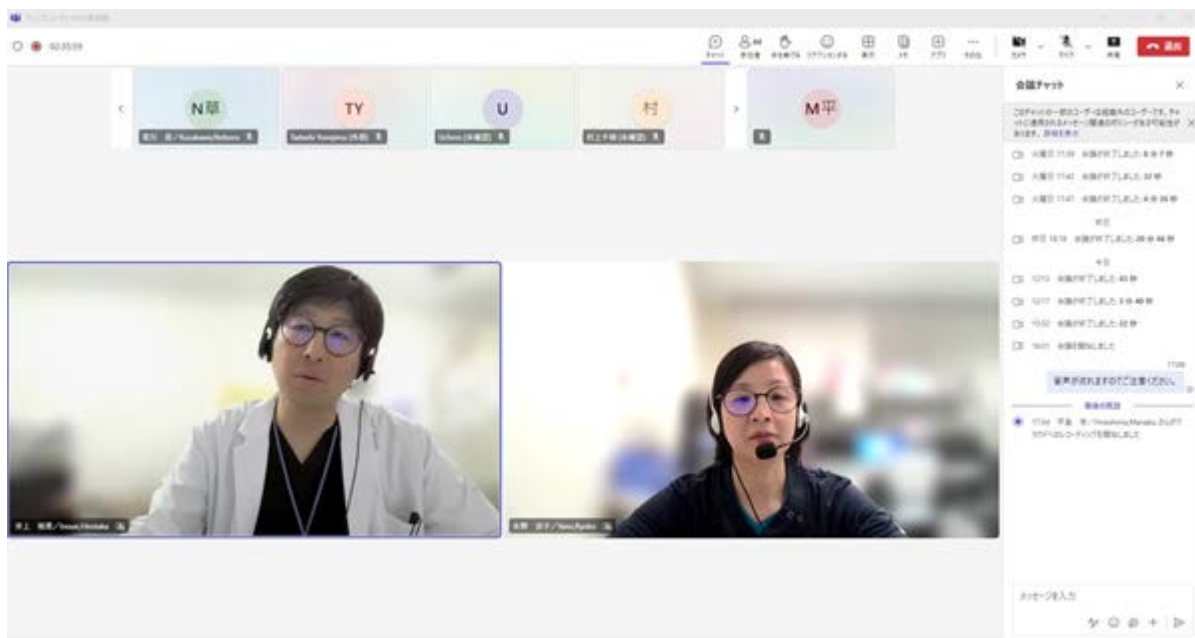
29件の回答



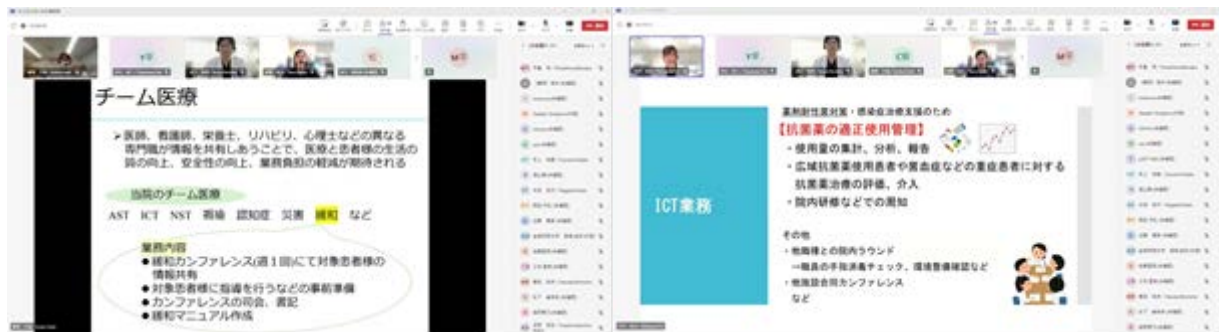
30名から申込いただき、事前アンケートに結果から、うち22名(73.3%)が5年生でした。愛知学院大学、日本大学、金城学院大学、金沢大学、静岡県立大学、富山大学、北陸大学、名城大学の薬学生から申込いただき、東海北陸エリアの大学から注目いただいていることがわかります。事前質問で多かったものとして「1年目の勤務地」「異動」「転勤」「認定・専門」「力を入れている取り組み」などに特に興味があるようでした。

セミナー中の風景

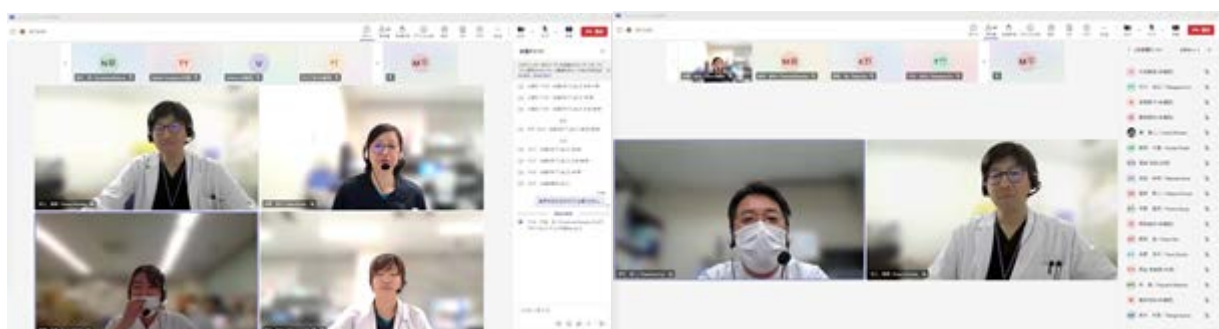
座長の矢野先生と井上先生



演者の発表風景

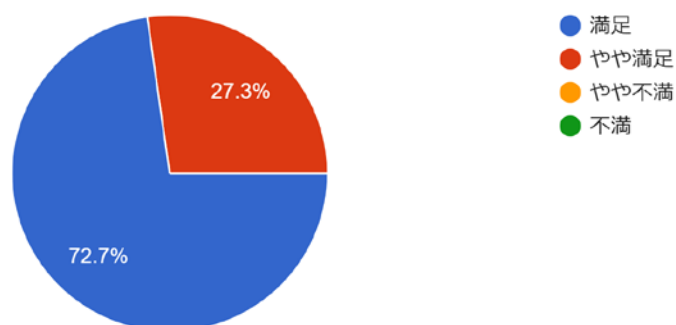


質疑応答の風景

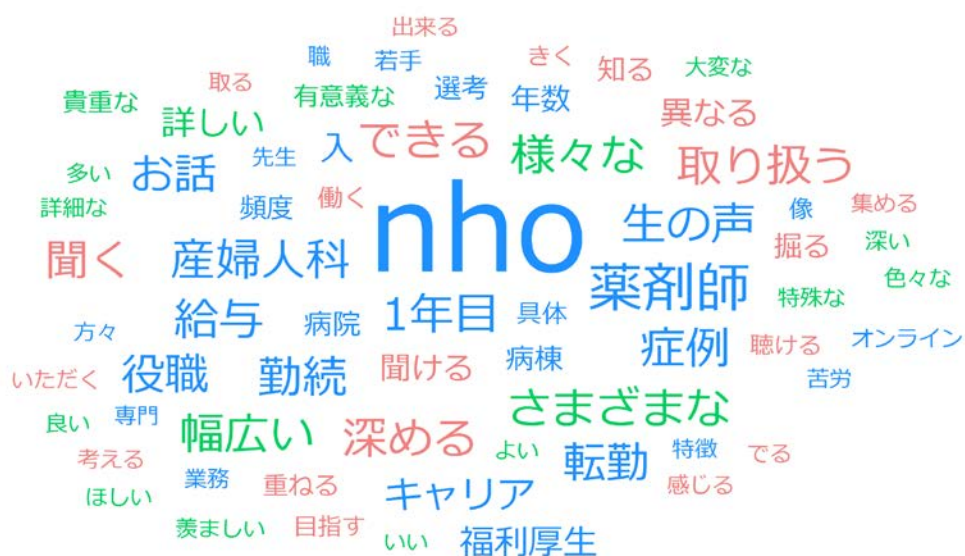


セミナー事後のアンケートに 22 名の参加者に回答いただきました。

「けっこういいぞ!! NHO薬剤師 2025 LIVE」の満足度を教えてください
22 件の回答



満足度は非常に高く、満足度の理由についてテキストマイニングを行うと、「nho」、「薬剤師」、「1年目」、「産婦人科」、「給与」、「役職」、「転勤」などワードが目立っていました。これらより今回のセミナーの主目的である NHO の薬剤師の業務や研修についてお伝えできたのではないかと手ごたえを感じています。

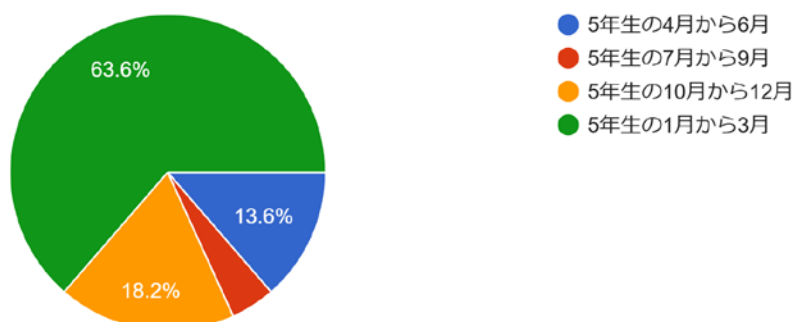


※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析

また、開催時期について 5 年生の 1-3 月が最も回答が多く、昨年度同様 10-12 月にも要望がありました。そこでオンデマンド配信の準備を進め、秋ごろに公開したいと考えています。

開催時期はいつ頃が適切ですか？

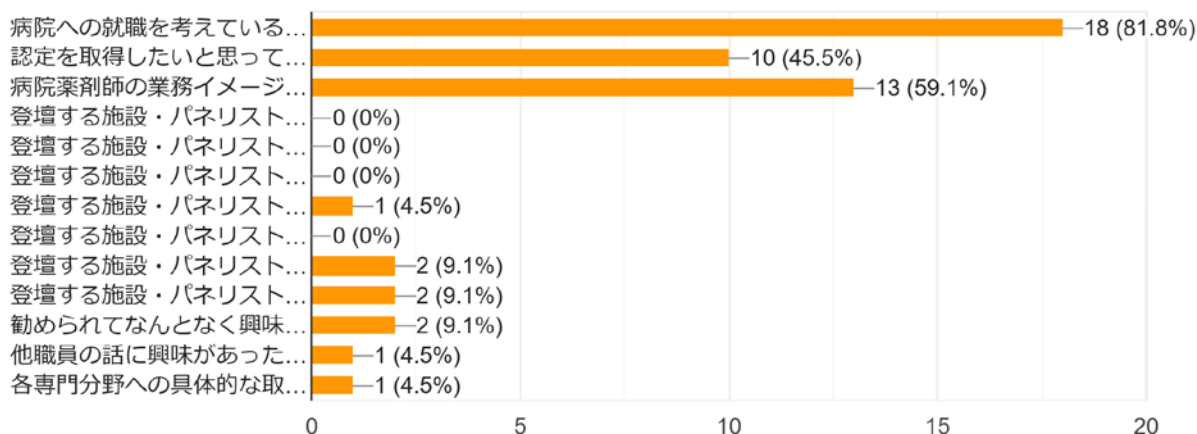
22 件の回答



参加した理由としては「病院への就職を考えているため」が最も多く、「病院薬剤師の業務のイメージを知りたいから」が次に多い結果でした。就職先の第一志望を病院と回答した学生はおよそ90%でしたので病院への就職希望のある学生に参加いただけたものと思います。

「けっこういいぞ!! NHO薬剤師 2025 LIVE」に参加した理由として近いものを教えてください (複数回答可)

22 件の回答



ウェビナー全体を通しての感想

- ・NHOに興味を持つことができました。ありがとうございました。
- ・入職 1 年目の方から管理職の方まで、幅広い勤務年数の方の発表を聞くことができ、入職後のキャリアについて想像を膨らませることができました。
- ・病院薬剤師の方々のお話を聞く機会が薬局よりも少ないため、とても勉強になりました。様々な勤務年数の方からお話を聞くことができ、就職後のイメージをつかむのに参考になりました。
- ・普段の業務内容や 1 年目のスケジュールなどを体験を通して話していただき、さらに国立病院機構全体についてのお話をさせていただくことで新たな気づきがあり、参加して良かったと思いました。

◆ 令和6年度 THP 医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI®を使って)

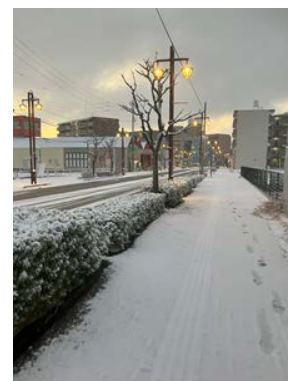
公開日:令和7年2月8日(土)

開催場所:三重中央医療センター

受講生 :11名

MBTI®は人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。外部委託研修として開催し、MBTIの認定ユーザーである国立がん研究センター中央病院の大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。これらの作業を通して、自分と他者との考え方やものとりえ方が明らかに違うことを体験することができ、とても盛り上がりました。

一昨年の金沢開催の時と同様、三重開催でまさかの大雪に見舞われ、牡丹雪が舞う中、最寄り駅まで何とか歩いて到達しました。近鉄が大幅に遅延するなど開催が危ぶまれましたが、無事に開催することができました(右写真 朝一の駅までの道)。



本研修の継続について検討するために、受講生に対して3か月後、6か月後にNHO-PADから項目を抜粋して作成したアンケートを実施予定です。三重地区の開催で、東海北陸4地区の開催が完了しましたので、今後は開催場所・時期・頻度、対象となる受講生について検討を行いたいと思います。

研修会講義風景



グループワーク風景



受講生全体写真



業務推進委員会活動報告(令和7年3月)

業務推進委員会委員長
安藤 舞

業務推進委員会は、今年度より副委員長を交代し、新メンバーを加えて活動して参りました。

昨年度に引き続き、研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。

今回は2024年10月から2025年2月までの各小委員会の活動を報告させていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	安藤 舞(名古屋医療センター)
副委員長	細江 慎吾(豊橋医療センター) 竹田 あかね(豊橋医療センター)
小委員会 コアメンバー	青木 まりあ(金沢医療センター) 磯部 忠良(静岡てんかん神経医療センター) 伊藤 朱里(医王病院) 伊藤 大輔(静岡医療センター) 稲垣 雄一(静岡医療センター) 酒谷 健斗(金沢医療センター) 深尾 那実(名古屋医療センター) 松岡 哲平(七尾病院) 山梨 領太(名古屋医療センター) 山本 正和(石川病院)

◆業務向上小委員会◆

① THP プレアボイド大賞 WG

小委員長:酒谷、松岡、山梨

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2024年6月の総会にて第6回 THP プレアボイド大賞の結果を報告させていただき、各施設に賞状、副賞を授与しました。

現在第7回 THP プレアボイド大賞準備のため各施設のプレアボイドの収集が完了し、評価、集計を行う予定です。

◆業務改善小委員会◆

① 働き方改善 WG

小委員長:磯部、山本

この WG では、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容を THP 会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

2024 年 12 月より「NHO ママ薬剤師 (Pharmama) に聞く Vol.9」の作成を開始しています。

今回は育児休暇を取得した男性薬剤師にインタビュー予定であり、タイトル変更を検討中です。

Vol.1～8 については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

② QC 活動 多施設共同 QC

小委員長:伊藤朱

業務推進委員会では QC 活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていました。今年度は QC を体験し自ら QC を実施しようと思えるきっかけを作るため、また他施設の仲間と知り合うために、医薬品ロス削減をテーマに多施設共同 QC 活動を企画しました。

2022 年 10 月より QC チームの参加募集を行い、4 施設で活動を開始し、各施設で医薬品の使用期限管理をどのように行っているか現状把握を行うために、THP 全施設にアンケートを行いました。

2024 年 2 月には医王病院の QC 活動報告会でも、これまでの活動をまとめたものを発表し、優秀賞をいただきました。その後東海北陸ブロックの最優秀賞を受賞し 2024 年 10 月の総合医学会で発表しました。

多施設 QC 参加施設:医王病院、金沢医療センター、長良医療センター、名古屋医療センター

③ MBTI 研修会(教育研修委員会との共催)

小委員長:安藤、伊藤大、稲垣

MBTI は人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた、世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。2025 年 2 月に三重中央医療センターで第四回 MBTI 研修会を開催しました。昨年度に引き続き外部委託研修として開催し、MBTI の認定ユーザーである大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。

次回は名古屋地区での開催を検討中です。

◆業務共有小委員会◆

① 薬薬連携 WG

小委員長:青木、伊藤大、深尾

この WG では、THP の各施設で実施している薬薬連携を紹介して、薬薬連携の推進を目的としています。

今年度は薬薬連携からは少し離れますが、各施設の周術期薬剤管理加算についての取り組みを

収集し、THP HP へ掲載予定です。

過去の取り組みについては、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

② チーム医療

小委員長：山本、深尾

2024 年度のチーム医療担当者名簿を作成、全会員にメールで配布しました。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでも THP 会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときに HP をご覧いただき、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2025年3月14日

令和6年度後期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本高範

1. 令和6年度会員研究実績 (2024年10月～2025年3月)

国内外学術誌掲載 (査読あり)

- 1) 春田桃歩 「うつ病を既往にもつ妊娠中の明らかな糖尿病患者に間歇スキャン式持続血糖測定器を導入し血糖コントロール改善に貢献した1症例」 日本病院薬剤師会雑誌. 2024; 60: 1228-1233.
- 2) 中村あゆみ 「Favorable Prognosis in Patients With Multiple Myeloma and Lenalidomide-Induced Skin Rash: A Multicenter Retrospective Study」 European Journal of Haematology. 2024; 0: 1-9. <https://doi.org/10.1111/ejh.14333>
- 3) 鈴木亮平 「在宅医療における多職種による情報共有および服薬管理・薬物療法に関する業務の実態調査. 2025; 51: 35-45.

2. 令和6年度 後期活動報告

○令和6年度東海北陸国立病院薬剤師会 研究・取り組み発表会

日時：2025年2月22日(土) 13時00分～17時00分

場所：ハイブリッド開催

◆サテライト会場は名古屋医療、金沢医療、静岡医療、三重中央の4会場

参加者：87名

プログラム

司会：山本 高範 (三重病院)

13時00分～14時40分

セッション1 若手薬剤師の1年間の成果報告

座長：大井 勇秀 (三重中央医療センター)

- 1) 1年間の成果報告～病棟活動・プレアボイド報告を中心に～
森本 佳蓮 (三重中央医療センター)
- 2) 1年間のまとめ
宇田 龍馬 (三重中央医療センター)
- 3) 富山赴任11ヶ月
青木 茉佑子 (富山病院)
- 4) 呼吸器外科病棟での活動について
高橋 一葉 (長良医療センター)
- 5) 栄養サポートチーム活動報告
松下 すみれ (北陸病院)

- 6) NHO に転職してきてからの活動
櫻井 凌 (名古屋医療センター)
- 7) DLBCL 治療中における G-CSF についての検討
坂井 翔太 (名古屋医療センター)
- 8) パーキンソン病の進行に伴う嚥下機能低下患者に対して剤形変更を行った 1 例
早川 未紗 (鈴鹿病院)
- 9) 当院におけるヴィアレブ配合持続皮下注 (ホスレボドパ・ホスカルビドパ製剤) 導入に
むけた取り組み
西田 涼馬 (金沢医療センター)

休憩 10 分

14 時 50 分～15 時 50 分

セッション 2 取り組み報告

座長：鈴木 亮平 (三重中央医療センター)

- 10) フィコンパ点滴静注用の添加物 SBECD の対応について
磯部 忠良 (静岡てんかん・神経医療センター)
- 11) 認知症ケアチームにおける薬剤師の活動報告
長内 真理子 (金沢医療センター)
- 12) カルバペネム系抗菌薬の供給不安定に対する当院の対策
近藤 響子 (静岡医療センター)
- 13) 関係者会議を通じた初発 1 型糖尿病患児の退院支援への関わり
野田 真愛 (三重病院)
- 14) 国立病院機構の薬剤師が企画・開催した薬学生向け「薬剤師のリアル」
高木 彩菜 (静岡医療センター)

15 時 50 分～16 時 30 分

セッション 3 研究発表

座長：松木 克仁 (名古屋医療センター)

- 15) 緩和ケアチームの業務効率改善を目指したオピオイド投与量計算ツールの作成
杉田 望月 (石川病院)
- 16) クロファジミン使用に伴う QT 延長の副作用発現と併用抗菌薬の関係性について
地田 凌 (東名古屋病院)
- 17) 治療薬物モニタリングを実施している患者に発現するテイコプラニン誘発性肝障害の予
測における肝予備能 - 肝線維化指標併用の有用性：多施設共同後向きコホート研究
大井 勇秀 (三重中央医療センター)

休憩 5 分

16時35分～

セッション4 定年される先生方からの言葉

座長：長岡 宏一（豊橋医療センター）

18) これからを担う薬剤師へ

市野 貴信（国立長寿医療研究センター）

高橋 昌明（三重中央医療センター）

3. 学術研究委員会主催の勉強会

○「Web 論文抄読会」

日時：12/12（木）、2/6（木） 17時30分～18時30分

場所：Zoom

12/12：大腸がんでオキサリプラチンを投与中の患者に、Grade2-3の末梢神経障害が認められた時、どう対応するか

2/6：SGLT2阻害薬の副作用には季節性があるのかな？

○「臨床研究の進め方に関するオンデマンド研修会」

日時（予定）：2024年3月22日（土）

場所（予定）：現地＋オンデマンド（4月以降予定）

4. 後期活動の統括

3月に幅広い分野から演題募集を行った研究・取り組み発表会を行った。若手薬剤師の成果報告、院内での取り組み報告、研究発表、定年される先生方からのメッセージ等、計18演題の発表があり有意義な会となった。学術研究委員会主催の勉強会は継続して行った。次年度も継続して開催する予定である。

学会発表数が年々減少しており、若手のモチベーション向上と次世代の研究リーダーの育成が急務である。今後も研究活動を通じ、会員のプレゼン力、文章力、実行力、遂行能力など研究スキル向上を目標に努めていく所存である。

編集後記

会誌Vol.33を発行します。

教育研修委員会の活動報告の後半でMBTI研修の際に「三重開催でまさかの大雪に見舞われ」との記述がありますが、2月8日はほとんど雪が積もることのない浜松でも薄っすらと雪が積もっていました。土曜日でしたが職場周辺の道路状況を確認したくなり早朝から病院に向かっているとノーマルタイヤでスリップしながらノロノロ運転の車を何台も見掛けたことを思い出します。急な雪で仕方がないところもありますが、やはり状況にあったタイヤを履いていないと危険ですし、他人に迷惑を掛ける可能性もありますね。因みに、今後の気象状況を調べてみると昨年とほぼ同様の予報のようで夏は夏でまた猛暑や豪雨に悩まされそうです。

東海北陸国立病院薬剤師会会誌 第 33 号 令和 7 年 3 月発行

発行元 東海北陸国立病院薬剤師会

(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター薬剤科内)

発行人 会長 竹内 正紀 (静岡医療センター)

編集 広報担当理事 三井 陽二 (天竜病院)

